令和３年度　美作市立英田小学校　学校だより　12月号

共に 伸びる 英田っ子

～かしこく・やさしく・たくましく～

自分で考えてやってみようとする児童・相手を思いやり伝え合おうとする児童

12.3（金）　日帰りに縮小も全員参加できた修学旅行

昨年度は実施できなかった修学旅行。感染状況が小康状態になり、健康管理も継続されたことで日帰りながら15人全員そろっていくことができました。「みんなで行けて楽しかった。」などのふりかえりの言葉に、行事の価値を改めて感じました。

備前焼体験

瀬戸内海を臨む

自分で生活をコントロールし、デザインできる力を!!
第2回　ぱっちりモグモグ!パワーアップ大作戦【結果概要】

英田中学校区学校園では、中学校の考査期間と関連付け、「家庭時間をどう過ごすのか」・「学習時間をどう確保するのか」・「お楽しみメディアとどう付き合うのか」などを各家庭（保護者と児童自身）で考える機会とし、健やかな成長のためのよりよい生活習慣獲得等を目指した取組を継続しています。11月下旬に実施した第2回の取組結果（概要）をお知らせします。

① スクリーン・タイム（スマホやゲーム等に向かう時間）のコントロール2極化
② 1~5年生では1週間の合計学習時間低下（第1回比）

学年	在籍数	提出者	提出率（%）	（平日）学習目標時間平均（分）	（休日）学習目標時間平均（分）	1週間合計学習時間平均（分）	おたのしみメディア時間コース			1週間合計実際のメディア時間（分）
							0分	30分	60分	
1	16	14	88%	24	36	187	3	4	7	285
2	12	12	100%	34	40	269	3	2	7	294
3	8	8	100%	45	44	239	0	4	3	242
4	20	20	100%	64	71	540	4	6	10	213
5	8	8	100%	81	100	663	5	2	1	226
6	15	11	73%	72	74	412	0	7	4	489
合計	79	73	93%	53	61	385	15	25	32	292

取組率は93%(第1回比 +5%）と向上しました。「お楽しみメディア利用時間」を0分に設定した児童が15人（同 +6人）と増えた一方、60分に増やした児童も32人（同 +5人）と増加しました。本校では、簡易調査により約20%の児童がメディア依存傾向が高い状況(岡山県調査 約10%の倍）にあることから、生活時間のデザイン力（自分で学習時間を確保する計画性・ゲームをストップできる力等）の獲得は非常に大切と考えます。

ゲーム時間増大による学力へ悪影響は明らか(2017→2021文科省調査)になっており、最近の報告では、特に、子どもの将来に係る健康への危惧【視力や眼球（視神経）への悪影響】・ゲーム・ネット依存【=ゲーム障害という精神疾患】に起因する生活破綻を軽視することはできません。今一度、真剣にそして具体的に子どもの時間を見直す必要があります。

（R3.12.15 校長作成）